

平成30年度 学校評価自己評価報告(こども園・幼稚園)

こども園・幼稚園名 (京丹後市立峰山こども園)

こども園・幼稚園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)
<p>“笑顔でつなごう。みんなの てとて!!” 一はなそう・つたえよう・みんなのおもい</p> <p>(1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 (3)身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。</p>	<p>○保護者や関係機関と連携を持ち、懇談や研修を兼ね合ったかかわりを行うことで一人一人が安心安定した生活や活動ができた。 ○『朝の第一歩は挨拶から』を子ども達・保護者に伝えることで生活習慣やことばを意識することができるようになった。 ○生活や活動に主体的に取り組めるようことばかけや環境を整えることで人や物へのかかわりに意識しながら行動できるようになってきた。 △保護者・地域に開かれた園として信頼関係に努める。 △乳幼児保育教育の研修を深める。</p>	<p>本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)</p> <p>(1)幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。 (2)自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 (3)幼児の実態や発達に合わせ支援し、共に育ち合う集団をつくる。 (4)保護者の子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。 (5)峰山学園 (園から小中一貫教育) の連携を進める。</p>
<p>評価項目 小中一貫 教育の推 進 (保幼小 接続)</p>	<p>重点目標</p> <p>○『峰山学園』の連携 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成 (1)意欲を持って自ら学ぶ子ども (知) ・友だちとかがわたりながら遊びや生活を発展する。 (2)思いやりのある子ども (徳) ・あいさつをする。 ・保育者や友だちと話をする。 (3)進んで心と体を鍛える子ども (体) ・保育者や友だちといろいろな運動遊びに挑戦する。</p>	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <p>○峰山学園内の状況や京丹後市の教育を自園の状況や課題に合わせ、生活や活動・行事の内容を話し合い進めてきた。個々に合わせた目標を持つことで達成感を味わわせることができた。 ○学園内での連携は、参観や担任会などから実態を知り、成果課題を交流することができたことで園児や保護者への関わりや関係機関へのつながりの学びとなり取り組めた。 ○小学校との連携では、園への参観や行事への参加・散歩(中間休みでの小学生や先生との交流)は、入学を迎える5歳児にとって滑らかな接続の一つであった。 △園運営での違いはあるものの私立こども園との交流の方法を検討しながら峰山学園としての教育を進めていく。</p>
<p>教育課程</p>	<p>(1)園内外の自然の中で発見や感動を持つ。 (園内)・砂・泥遊び・プール遊び・遊具であそぶ ・園内の草木・野菜・花づくり ・小動物の飼育</p>	<p>○一人一人の動きを観察しながら表情(言葉を含む)や行動に合わせた助言や支援を行うことで友達との関わりや感動を言葉するなど、言葉を通しての遊びが発展したり活動を楽しんだりするようになった。</p>

教育課程	<p>○幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育てる。</p> <p>○自分の思いや考えを表現したり行動できる力を養う。</p> <p>○日常的に園内外の安全指導・安全対策に留意する。</p>	<p>(園外)・散歩・遠足・お花見・農道を歩く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よもぎ摘み・公園で遊ぶ・小動物補助 ・泥んこあそび・田植え・稲刈りなど <p>(2) あいさつ運動: 元気に挨拶を交わし一日を始める。</p> <p>(3) 登園時間や子ども達の実態を把握し、個々に合った助言や指導を行う。</p> <p>(4) 活動に合わせ、話し合いの時間や場を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を知り、友だちの良さに気づける生活や遊びを進める。 ・朝の会や終わりの会などで思いや考えを伝える。 <p>(5) 散歩や交通安全などのきままりや遊びのルール・交通安全ルールを知り守る。また、保護者と一緒に交通安全・危機管理について学び合う。</p>	<p>○園の周りの環境を地域の方の協力で自然体験や食育に関連して学ぶことができた。</p> <p>○日々の生活や活動を年齢に合わせて、クラスや学年・職員間で話し合いを進めてきたことでそれぞれが興味関心を持ち、やる気へとつながっている。</p> <p>○季節に合わせて、登降園の送迎場所を変えたことで送迎時、園児の朝の状況を確認ができた1日の活動や状況を話し、保護者との連携を持ったりすることができた。</p> <p>○繰り返し駐車場など交通ルールや集団のルールを話すことで守ろうとする気持ちを持つている。</p> <p>△習い事などで、家庭でゆつくり関わることをしないなど、苦手な保護者が増えている。関わり方など今必要なことを伝え合える場を持つ。</p>
子育て支援	<p>○家庭での子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。</p>	<p>(1) 子育て相談 (随時) (4) 預かり保育</p> <p>(2) 園庭開放 (毎金曜日) (5) 支援センターの利用</p> <p>(3) 園開放 (月2回) (6) 一時預かり制度の利用</p>	<p>○家庭状況に合わせて保育形態を進めることができた。(送迎時間など)</p> <p>○送迎場所をテラスにすることで日々の様子を伝え合うことができた。</p> <p>△大規模園ではあるが行事や活動内容など保護者との連携を持ちながら様々な保育形態や園児一人一人に合った細かい連携を進めていく。</p>
家庭・地域との連携	<p>○自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。</p> <p>○人とのかかわりの中でのことばの使い方・必要性や大切さに気づき楽しむ。</p>	<p>(1) 登園時間を9時までとし、集団生活での活動の楽しさを知らせる。(生活リズム・食育)</p> <p>(2) 園での様子をたよりなどで発信し、保護者や地域の方と共に教育保育を進めていく。(地域への散策)</p> <p>(3) 保護者・地域・社会人講師を迎えて様々な体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ・野菜の苗植と定植 ・稲作り・運動あそび・防災訓練・交通安全教室 ・A L Tとの交流 	<p>○登園時間を9時とすることで集団としての生活リズムがあることを知らせ、朝マラソンや体操で体が目覚めることが園児から保護者へと伝わり元気に登園できた。</p> <p>○園のホームページでいろいろな情報を発信することができた。</p> <p>△園児の保育時間と職員の勤務時間との関係で保護者にどのような方法で日々の様子を伝えて連携を持つのが良いのか考えていく必要がある。(個人的に話したい保護者が多い)</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>○0歳児～5歳児までの発達を学び、個々に合った教育・保育を進める。</p> <p>○保護者や関係機関との連携を持ち、個々の発達に合わせた教育・保育を進める。</p> <p>○思いや考えを年齢なりに言葉で伝えたりする態度を身につける。</p> <p>○職員間の報告・連絡・相談を丁寧に行い、引き続き園児・保護者・職員との輪をつなぐ。</p>		

平成30年度 学校評価自己評価報告(こども園・幼稚園)

こども園・幼稚園名 [京丹後市立大宮こども園]

評価項目	重点目標	前年度の成果と課題	本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)
<p>小中一貫教育の推進 (保幼小接続)</p>	<p>○『大宮学園』の教育目標を踏まえ、目指す子ども像の育成に努める。</p> <p>○保育所・こども園・小学校との連携を密にし、円滑な接続を図る。</p>	<p>前年度の成果と課題</p> <p>○身近な物(廃材・自然物等)で工夫したり発想するなど、主体的に考え、遊ぶ力がついてきた。</p> <p>○異年齢活動により優しさや思いやりやの気持ちや育っている。また関わりの中で好奇心や挑戦する、諦めないなどの気持ちが育ってきているが、自分の思いや△△話を聞く態度が身についてきているが、自分の思いや考えを言葉で伝えることに課題が残る。</p> <p>△挨拶が自然にできる雰囲気作りや方法を工夫する。</p> <p>△園での様子や活動内容を保護者に知らせる工夫、話をする時間の確保が必要である。</p> <p>△職員間の報告・連絡・相談・確認の徹底と子ども達の発達と教育・保育の研修を重ねていく。</p>	<p>体験的な活動の場を取り入れ、主体的で協同的な活動を引き出す環境構成に努める。また、遊びの体験を通して豊かな感性を養う。</p> <p>(2) 自らの健康や生活に関心をもち、生活習慣の基礎を培う。</p> <p>(3) 家庭との連携や保護者同士のつながりを深め、安心して子育てができるように支援する。</p> <p>(4) 大宮学園(小中一貫教育)の連携を図り、円滑な接続ができるよう交流や研修を進める。</p>
<p>小中一貫教育の推進 (保幼小接続)</p>	<p>○『大宮学園』の教育目標を踏まえ、目指す子ども像の育成に努める。</p> <p>○保育所・こども園・小学校との連携を密にし、円滑な接続を図る。</p>	<p>具体的方策</p> <p>(1) 経営会議を通して子ども達の実態を把握し、共通の目標をもつ。(ことばの力・思いやり心・つながる力の育成)</p> <p>(2) 小学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験入学や運動会、マラソン大会見学、生活発表会の鑑賞 ・アプローチャプログラム、小1スタートカリキュラムの充実を図る。 <p>(3) 中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震津波合同訓練や体育祭リハーサル見学、福祉体験を通し交流を深める。 <p>(4) 保育所との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任会や参観交流、5歳児交流会を行い、スムーズな接続の推進を図る。 <p>(5) 地域・家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育委員会による「家庭のやくそく」を保護者と共に取り組み、子ども達の健全な育成を進める。 	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <p>○経営会議で共通理解を図り、『ことばの力』を中心に環境を整え、教育・保育を進めていくことができた。</p> <p>○異校種交流を行う中で、生活や学びの見通しをもったり、中学生の温かさに触れたりする中で、憧れの気持ちや優しさなど心を豊かにする体験ができた。</p> <p>○スタートカリキュラムの検討や交流を担任会でを行い、同じ目標を共有しスムーズな接続につなげることができた。</p> <p>△公開授業や公開保育を利用し、職員の研修や交流を通して連携を深め、円滑な接続に努める。大宮北保育所との交流も強化する。</p> <p>○25日「にこにこの日」に保護者と協力して挨拶運動をしたり、ふれあい給食日として異年齢給食を実施し交流を深めたりするなど、園児、職員も同じ気持ちで取り組み、園児の健全な育成につなげた。</p>

教育課程	<p>○園児自らが環境に関わり、感動する体験を大切にし、五感を磨き、豊かな感性を養う。</p> <p>○自分の思いや考えを表現したり、言葉によるコミュニケーション力を育む。</p> <p>○協同的な活動や遊びの体験を通して、主体的に行動できる力を育む。</p> <p>○園児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育む。</p> <p>○地域の自然や身近な人々に親しみ、自然体験や社会体験を豊かにする。</p>	<p>(1) 園内外の自然の中で発見や感動をもつ。 (園内) ・砂、泥遊び・プール遊び・園内の草木・花、野菜作り・クッキング活動・虫捕り・小動物の飼育 (園外) ・遠足：天の橋立・地域の神社 ・散歩：花畑・農道を歩く・蘆橋み・ザリガニ釣り・田植え、稲刈り、泥遊び</p> <p>(2) コミュニケーションの第一歩、挨拶を園児自らが進んで行えるよう働きかける。また、絵本や読み聞かせを通して、言葉の表現を楽しんだり、友達の思いや自分の思いを伝えたりする機会を多くもつ。</p> <p>(3) 登園時間など子ども達の実態を把握し、個々に合った助言、指導を行う。</p> <p>(4) 散歩や集団活動などで交通ルール・集団でのルールを共に考え知らせる。</p> <p>(5) 異年齢での交流を深める。</p> <p>(6) 地域の方々や高齢者との交流を通して親しみの気持ちをもつ。</p>	<p>○年間を通じて園外保育や戸外活動を中心に自然に関わり、発見や感動体験をし、豊かな心、感性の育成につながった。</p> <p>○栽培活動やクッキング活動を通して、食への関心や感謝の気持ちを育むことができた。</p> <p>○△園内での挨拶の習慣は身につけているが、自分から挨拶をする、自分の思いを伝えることなど、引き続き取り組んでいく。</p> <p>○△交通指導、避難訓練により命を守ることや規範意識へとつなげることができたが、園児・保護者にルールや決まりを守ることの大切さを今後も繰り返し指導していく。</p> <p>○豊かな人間関係を築けるように、異年齢活動や小中学校・福祉施設や社会人講師等との交流を進めていく中で、優しい言葉使いや場に応じた言葉、思いやりの心を育むことができた。</p> <p>△園生活の中での様々な経験をを通して、言葉を介したコミュニケーション能力を育んでいく。</p>
子育て支援	<p>○家庭での子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援を充実させる。</p> <p>○家庭と連携し、教育力の向上を図る。</p>	<p>・子育て支援センターや一時預かり制度利用の周知を図る。</p> <p>・子育て相談の充実や園開放・園庭開放により、保護者同士の交流を深める。</p> <p>・園便りやクラス便り、懇談会、生活点検表の実施を通して、子ども達の様子を発信する。</p> <p>・保護者会活動を通して互いに学びあう。</p>	<p>○園庭開放で保護者が普段の子どもの様子を感じたり、交流の場として活用できたりした。</p> <p>○△子ども達の様子をHPやホワイトボードで知らせ、親子の会話や理解、連携の充実が図れた。しかし、個々についてにより丁寧に伝えていく必要性を感じた。</p> <p>○保護者会学習会を通じて親子で学ぶ機会がもてた。</p>
研修 (職員の資 質向上)	<p>○園内研修の充実</p> <p>○職員の資質向上</p>	<p>・認定こども園教育・保育要領を熟知し、一人一人の育ちに合わせた援助、環境構成について事例研究を通して学びあう。</p> <p>・初任者研修や外部研修報告会を通して、職員が一緒に学ぶ機会を持ち、資質・意識の向上を図る。</p>	<p>○外部研修後の復命や短時間でも意見交流の場をもち、日々の教育・保育、要支援児についての支援方法や環境構成などについて学びを深めることができた。</p> <p>△更に外部研修への参加や園内研修の実施に努め、PDCAサイクルを活用し幼児理解、職員の資質向上に努める。</p>
次年度に 向けた 改善の 方向性	<p>○大宮学園の目指す子ども像の育成に努め、効果的な教育連携活動を充実させていく。</p> <p>○日常における園での活動や様子を便りや園ホームページに更なる情報発信していく。</p> <p>○認定こども園教育・保育要領に基づき、0歳～5歳児までの発達を捉え、一人一人の育ちに合わせた援助・支援の充実、環境構成をしていく。</p> <p>○PDCAサイクルを活用し、園内研修の充実を図り、職員の資質向上に努める。</p>		

平成30年度 学校評価自己評価報告(こども園・幼稚園)

こども園・幼稚園名 [京丹後市立網野幼稚園]

こども園・幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)
(1)	幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。	・小規模園のよさを生かし、幼児がどの職員から『包み込まれているという感覚』をもてるように、幼児一人一人のよさや頑張りなどを認めるよう努めた。	『どきどき わくわく きらっ!』 ～つながる喜びを感じ、夢中になって遊び込む子どもをめざして～	・楽しい幼稚園生活を過ごす ・主体的な活動をくり広げる ・人とつながり合うことの喜びを味わう
(2)	自分の思いや考えを表現し、行動できる力を養う。	・登園の様子を見守ったり挨拶を交わしたりする等、常に保護者と近い距離にいることで、幼児にとって「楽しい幼稚園」につなげることができた。		
(3)	幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育てる。	・情緒の安定と信頼関係づくりを基盤とした幼稚園生活を大切にしていたが、つなげたりや主体性を意識した遊びが展開するよう環境を整えていきたい。		
(4)	常に園内外の安全指導、安全対策に留意する。	・新幼稚園教育要領と網野学園のアプローチプログラムの整合性を確認し、実践につなげていくことが必要である。		
(5)	地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。			
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
小中一貫教育の推進(保幼小接続)	・『網野学園』のめざす子ども像をもとに、学園の基本方針を理解しながら取組を進める。 ・幼児と児童の交流の機会や教師同士の研修の場を重視し、相互理解を深める。 ・学園のアプローチプログラムに園の独自性を加えて実践し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とのつながりを明確化していく。	・リーフレットを活用したり、小中一貫教育に関する会議や研修などに積極的に参加したりして、全職員で共通理解する。 ・運動会やマラソン大会、学習発表会などの学校行事を見学させてもらったり、園行事にも参加依頼をしたりするなどして、交流が深まるようにする。 ・アプローチプログラムを活用して日々の保育実践を検討し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とつなげて捉え、検証していく。	○△小中一貫教育に関する会議や研修には、全職員で積極的に参加し共通理解するように努めたものの、園経営や保育内容に十分に生かすことができなかつたため、保護者の理解にもつながりにくかつた。 ○ 1年生学習発表会リハーサルの見学を通して、幼児が感じたことや学んだことを1年生に伝えたり、保育実践に取り入れていたりしたことで、小学校と活動がつながり5歳児の学習への期待が大きくなつた。 ○△「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点においた実践研究が中心となり、アプローチプログラムを活用した実践の検証は十分にできなかったため、捉え方やつながりの明確な理解が、職員共通に図れなかつた。	

教育課程	『どきどき わくわく きらっ!』 ～つながる喜びを感じ、 夢中になって遊び込む 子どもをめざして～ ・楽しい幼稚園生活を過ごせ るようにする。 ・主体的、対話的な活動をく り広げられるような環境づ くりをする。 ・人とつながり合うことの喜 びを味わえるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の幼児と心をつなぎ、個々が安定できる幼稚園生活を創造する。 自らが健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 幼児が主体的に協同的な遊びを展開するような直接体験の場を設定する。 集団でなければできないこと、大勢ですると楽しいことに気付かせ、他人に関心をもたせる。 友達の良さや友達と一緒に過ごす心地よさを感じさせ、人とつながることの喜びを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小規模園のよさを生かし、個々の気持ちに丁寧に寄り添い関わる保育を心掛け、全職員で一人一人の幼児と心地よい関係を築いていった。 ○ 保護者との連携や協力のもとに定着したリズムある生活習慣が、情緒の安定に結びつき、スムーズな登園や楽しい園生活につながった。 ○△異年齢ペアをつくり一緒に生活や活動する場を設けることで、親しみをもって関わることでできたが、自然に異年齢が交流して遊ぶ姿にまでつながりにくかった。 ○ 「つながる喜び」を意識した保育実践に努めることで、友達と一緒に過ごす心地よさを感じ、互いのよさを認め合ったり、外国籍や特性のある友達を支援しようとしていたりする友達関係を育むことができた。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・園開放により、就園前の親子の保育参加を行い、子育ての安定を図る。 ・園だより、クラスだより、懇談会等で保護者に幼児の様子を知らせ、家庭と連携し、『共育で』をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回『なかよしスクール』を開催する。園児と交流したり、楽しく遊べる雰囲気や環境を設定したりする。 ・『子育て講演会』を開催し、子育てに関することを考えたり振り返ったりする場とする。 ・保護者の話や相談に丁寧に耳を傾け、一緒に問題解決に向けて進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『なかよしスクール』担当者リードのもと環境に工夫を凝らし、親子共が楽しい時間を過ごせるよう努めた。 ○ 網野中学校校長を講師に招いた『子育て講演会』を開催したり、ホームページを利用して園での様子を伝えたりしたことで、保護者と共に子育てを振り返ることができた。また、全職員が保護者の相談に丁寧に耳を傾け、一緒に問題解決に向かっていたため、保護者との信頼関係が深まり良い関係が築けた。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・新幼稚園教育要領の理解に努め、職員の資質向上をめざし、園内研修の充実を図る。 ・「主体的、対話的な深い学び」を表現する保育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エピソード研修やワークショップなどの園内研修を通して「3つの資質能力」や「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」等が実践に活かされているかを明確化、言語化、可視化する。 ・月案や週案の立案、反省を通して、日々の具体的な実践例をあげて環境構成や教師の援助の在り方などを探っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園内研修で明確化、言語化した「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」を、パワーポイントや掲示等で可視化して、保護者にも伝わるように取り組んだ。 ○△新教育要領に係る内容の確認や実践交流などを進んで行いながらも、効率のよい研修会のあり方を工夫し、今以上に深い考察ができるよう研鑽を積んでいき
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・認定子ども園に移行した後も、新教育要領を指導計画に反映させ、「3つの資質能力」や「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」等が実践に活かされているかを明確化、言語化、可視化できる園内研修や、網野学園アプローチャプログラムについての検証を進め、更なる質の向上に励んでいきたい。 ・保護者や地域と連携をもちながら教育活動を進め、網野幼稚園が大切にしてきた『共育で』を、網野子ども園へつなげていきたい。 		

平成30年度 学校評価自己評価報告(こども園・幼稚園)

こども園・幼稚園名 [京丹後市立丹後こども園]

こども園・幼稚園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)
<p>一人一人が生き生きと活動し、「楽しんで広がれ！つながれ！みんなえがお！」をテーマに、人とかかわりや様々な体験を通して心豊かたくましく、やさしさがあふれ、「生きる力」をもつ幼児を育成する。</p>	<p>前年度の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後学園の会議、研修に出席し学園の取組内容を職員会議で報告し、中学生の姿から幼児期に必要な力を職員間で話し合うことが出来た。 ・小学校との連絡会や学園接続部会で子ども達の様子を参観してもらい遊びが学びにつながっていることを理解してもらった。今後も幼児教育について理解してもらえよう参観内容についても考えていく。 ・小学校体験入学では、小学校の先生と内容について緻密に連絡し合ったことで、給食体験もあり子ども達の不安が解消され、入学がますます楽しみとなるよい取組ができた。 ・丹後学園の『にこちゃんらびーでー』の取組を通して、丹後中学校の3年生の生徒と一緒に挨拶運動が出来たことは、子ども達がいっしょに自ら進んで挨拶できるよい機会となった。 	<p>本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)</p> <p>合言葉「たっぷり遊んで う〜んと笑って みんな仲よし たんごの わ〜遊ぼう 笑おう 伝えよう〜」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動を通して人と人とのつながり、いたわりやさしさ、思いやりの心を育み、心豊かな人間性、社会性をもった幼児を育成する。 ・聞く力や話す力が身に付くよう、計画的に取組、自分の思いを言葉で表現するなど言葉の力の向上を図る。 ・保護者や地域との連携、また保幼小中連携を深め、様々な体験や活動を積極的に取り入れ、たくましく健やかな体と心をもった幼児の育成に努める。
<p>評価項目 小中一貫教育の推進 (保幼小接続)</p> <p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『丹後学園』の教育目標を踏まえ、学園の基本方針に基づき、取組を進める。 ・保幼小中の連携を密にし、スムーズな接続を図る。 	<p>具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『丹後学園』小中一貫教育に関する諸会議や公開授業等に参加し内容を全職員で確認する。 ・接続部会夏季研修会では、保育参観や指導実践交流を行い、発達の段階や特性に即した効果的な指導方法を及び指導の連続性・一貫性について研修する。 ・保幼小連絡会を設け、参観・懇談をする中で早い段階で課題などを見つけ就学に向けてスムーズな接続につなげる。 ・学校行事の見学や体験入学等により、子ども達の就学に対する意欲や憧れをもたせる。 ・近隣にある丹後中学校との合同避難訓練等の連携も引き続き行う。 	<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○学園夏季研修会、接続部会夏季研修会のなかで幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂ポイントとなる幼児期の終わりまでに育ってほしい姿についての研修を、小学校の先生方と一緒に研修する機会をもった。幼児教育を理解してもらえよう取組だった。また、32年度から実施される新学習指導要領と幼児教育が関連し、連続性があることを学んだ。学園内で連携をとることの大切さを更に理解できたと思う。</p> <p>○△丹後中学校との合同避難訓練は天候が悪く最終避難場所までの避難は出来なかったが、触れ合いや交流をする時間を作ったことで親しみをもつことができたことはよかつた。</p>

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの体験を通して心身にたくましく、創造的、意欲的に遊ぶ幼児を育成する。 ・遊びを通していたわりや優しさ、思いやりの心を育む。 ・言葉の力の向上、人の話を聞く、自分の思いを伝えることができるよう力を養う。 ・自分から進んで挨拶や返事ができるような環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を使った遊び（体操・リズム運動・散歩・なわとび・竹馬・固定遊具等）を積極的にとり入れる。 ・小動物の飼育、栽培物の世話と一緒に行う。 ・異年齢活動（チーム活動、クッキング、運動会に向けての活動等）を通して年下児へのいたわりの気持ちをもったりできたり、年長児に対して憧れの気持ちをもったりできる環境設定を考える。 ・絵本や物語などに親しむことで、言葉の力を豊かにする。 ・教師が幼児の話にしっかりと耳を傾ける。 	<p>○5歳児を中心に年間を通して、様々な運動遊びに挑戦した。運動に苦手意識のある園児も、友達の頑張る姿に刺激をうけたり、保育者が励ましたり見守ったりする中で意欲をもち取り組めた。5歳児の姿に憧れて4歳児、3歳児がやってみようとする姿につながった。</p> <p>○年間通して登園時に5歳児が挨拶当番活動を行い、みんなを出迎えた。日を追うごとに挨拶の声が元気になり保護者にも好評だった。今後も継続して取り組んでいきたい。</p> <p>△情緒の安定を図り安心して話す、相手の思いを聞くことに重点を置き、保育教諭は丁寧な関わりを心掛けた。しかし複雑な家庭環境もあり、安定を図ることは難しいこともあった。</p> <p>△学園全体で子育て講演会を企画して参加を呼び掛けたが、参加が少なく残念だった。</p> <p>○預かり保育、一時預かり保育利用が年間通して多かった。様々な家庭の事情による利用があり、保護者支援につながっていると感じた。</p> <p>○要支援児は保護者と面談して、保護者の思いも聞き支援計画を作成、園全体で発達を理解し関わるよう努めた。保護者と何度も面談を行い、成長を伝え家庭と園の様子を共有できてよかった。</p>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や未就園児の保護者のコミュニケーションの場をつくり、子育ての安定を図る。 ・支援を要する幼児に対しての支援策を園全体で考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会など、保護者同士が子育ての悩みなどをだしあえる場をつくる。 ・子育て支援センターや園開放、園庭開放により未就園児との交流をもつ。 ・子育て講演会への参加をよびかける。 ・預かり保育、一時預かり保育制度の活用 ・支援を要する幼児に対して保護者や保健師、他機関とも連携をとって園全体で支援していく。 	<p>△幼児期の終わりにまでに育ってほしい10の姿を園内研修で学びあった。遊びの中で育っている姿や関わり方の工夫など保育者間で話し合うことができよかった。しかし研修時間の持ち方や内容等はまだまだ十分ではない為、工夫が必要である。</p> <p>○△園内で公開保育をするが、職員体制の関係で参加者が限られ、事情により急に中止したりなど十分できなかつた</p> <p>△朝礼や終礼の時、園児の様子の伝達になってしまいがちだが、保育内容について話し合える場となるようにしていきたい。</p>
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の実施に伴い、全職員で理解を深め実践できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな研修に多くの職員が積極的に参加できるよう勤務体制の組み方を工夫する。 ・園内研修を積極的に組み入れ、園内公開保育やエピソード研究を行うなかで、0歳児からの年齢ごとの育ちがどのように「幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿」につながっていくのかを考え、全職員でよりよい子どもの育ちへとつなげる。 	<p>△幼児期の終わりにまでに育ってほしい10の姿を園内研修で学びあった。遊びの中で育っている姿や関わり方の工夫など保育者間で話し合うことができよかった。しかし研修時間の持ち方や内容等はまだまだ十分ではない為、工夫が必要である。</p> <p>○△園内で公開保育をするが、職員体制の関係で参加者が限られ、事情により急に中止したりなど十分できなかつた</p> <p>△朝礼や終礼の時、園児の様子の伝達になってしまいがちだが、保育内容について話し合える場となるようにしていきたい。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児期からの子どもが安心安定できる環境を整え、保育教諭との信頼関係の中で基本的な生活習慣の確立や健康な体づくり、やさしさや人を思いやる心を育んでいきたい。 ・子どもたちが様々な人やものに関わり、意欲的に遊ぶ環境を構成できるように職員で学び合う。 ・地域の人や伝承文化を大切にして、自然体験や感動体験を味わうなかで地元愛を育てていきたい。 		

平成30年度 学校評価自己評価報告(こども園・幼稚園)

こども園・幼稚園名 [京丹後市立弥栄こども園]

こども園・幼稚園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)
<p>「自然に親しみ 丈夫な体と豊かな心を持った 明るい子どもの育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康で生き生きと活動する子どもたちの育成 ○友達と関わり合って遊びを創り出す子どもの育成 ○人の話をしっかりと聞き、自分の思いや考えが言える子どもの育成 ○素直で思いやりのある子どもたちの育成 	<p>前年度の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的な活動・体験活動の充実により、生き生きとした活動の充実を図ることができた。 ○「弥栄こども園」の教育活動への理解を深め、子育て支援の充実や家庭の教育力の向上を目指して、教育活動・丁寧な発信の充実を図ることができた。 ○弥栄学園小中一貫教育の推進により、保幼小連携教育活動の充実を図ることができた。 △各種たより、園HP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等、家庭との効果的な情報連携の工夫を行う。 	<p>本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生き生き遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協力する力を育成するための日常教育活動・異年齢活動の充実を図る。 ○家庭・地域との連携を密にし、教育活動、子育て支援の充実を図る。 ○園小の効果的接続を目指し、アプローチプログラム改善、園小連携教育活動、合同研修の充実を図る。 ○幼保連携型認定こども園教育・保育要領による教育・保育に係る理論・事例研修を充実させ、指導力向上を図る。
<p>評価項目</p> <p>小中一貫教育の推進(保幼小接続)</p>	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○弥栄学園教育目標の具現化に向け、弥栄こども園教育活動を充実させる。 ○弥栄学園園小の連携教育活動を充実させる。 	<p>成果と課題(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「聞く力」「折り返しを付ける力」を育成するための園教育の充実を図った。 ○年間を通して計画的に園小連携教育活動を充実させ、小1プロブレムの解消に努めた。 ○幼児教育から小学校教育への円滑な接続を具現化するためのアプローチプログラム改善、指導方法研究を充実させる。
<p>教育課程</p>	<p>具体的成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的な活動、体験活動を充実させる。 ・主体的に活動の中で、生活に必要な習慣や規律を自ら取り入れる力を育むための健康・安全・生活指導の充実を図る。 ・楽しみながら体力づくり、友達づくりを行う力を育むために、体を一杯使う運動・遊びの充実を図る。 ・園内外の自然・自然物へ主体的に働きかけ、発見や感動を体験させるための体験活動の充実を図る。 ・豊かな人間関係を結ぶ力を身に付けさせるために、異年齢活動の充実、地域連携教育活動の充実、園小連携教育活動の充実を図る。 ○生き生きとした活動の徹底を図る。 ・衛生指導、食育指導、園内事故防止指導、交通安全指導等、自分の命を守る指導・教育活動の充実を図る。 ・豊かなコミュニケーション力を育むため、読み聞かせ・絵本等言葉の表現を楽しむ場面、保育者の指示・教えを聞く場面、友達の思いや考えを聞く場面、自分の思いを伝える場面、話し合い活動等、全ての園生活を通して言葉を紹介した教育活動の充実を図る。 	<p>本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的な活動、体験活動を充実させることができる。 ○日常的・主体的に、生活習慣・規律を身に付けさせるための健康・安全・生活指導の充実を図ることができた。 ○子ども達を作り出す子ども遊び、自然物を使った制作・色水遊び、サーキット等を取組、楽しみながら体力や友達をつくる力を育むことができた。 ○計画的に園外活動に取り組み、自ら自然に働きかけ、発見や感動を体験させる活動の充実を図ることができた。 ○異年齢活動や小学生・高校生との交流、地域連携活動を充実させ、豊かな人間関係を結ぶ力を育むことができた。 △さらに、様々な異年齢活動・体験活動の充実を図る。 ○生き生きとした活動の徹底を図ることができた。 ○さき細かな日常指導や行事(クッキング、交通安全啓発事業)により衛生・園内事故防止・食育・交通安全・自分の命を守る指導・教育活動の充実を図ることができた。 ○園生活の全ての聞く場面・思いを伝える場面や創作劇の取組を通して、言葉を紹介した教育活動を充実させ、表現力の育成を図ることができた。 △さらに、絵本活用、話し合い活動の充実を図る。

子育て支援	<p>○心の教育を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当番活動、飼育栽培活動、異年齢活動等、体験活動を充実させる。思いやりや自尊感情の育成を図る。 ・人権意識、豊かな感性を育むため、園生活の中で触れる悲しみ、喜び、温かさ等、人の心を豊かに感じる場面を共有する機会を大切に指導の充実を図る。 <p>○上記、3つの具体的方策の具現化過程に於いて、常に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意した指導の充実を図る。</p> <p>○各家庭へ「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域に関わる家庭教育指標を、園・担任より「たより」「子育て相談」「懇談会」「保護者会」等を通して発信し、年齢相応の生きる力の育成を図るための子育て支援を充実させ、家庭の教育力の向上を図る。</p> <p>○日常的な子育て相談の場、園行事による親子体験活動や保護者同士の交流・研修の場を工夫し、子育て支援を充実させる。</p> <p>○保護者と毎日直接会話をする機会が減った事に対し、より効果的な子育て支援のための効果的な情報連携の工夫を図る。</p> <p>○発達特性、個々成長課題等に関わり、個に応じた、丁寧な子育て支援の充実を図る。</p>	<p>○心の教育を充実させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○当番・生き物飼育・野菜栽培・異年齢活動等を充実させ、思いやりや自尊感情を育むことに努めた。 ○園生活の中で触れる喜び、悲しみ、温かさ等、人の心を感ずる場面を共有する機会や地区サロン訪問などを通して、豊かな感性や人権意識の醸成に努めた。 △さらに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意した教育課程編成・指導の充実を図る。 <p>○年間を通して、家庭教育指標について「園・クラスたより」「園HIP」「子育て相談」「個人懇談」「保護者会」等により、子育て支援や家庭の教育力の向上を目指して、発信や連携を充実させることができた。</p> <p>○園庭開放、日常的な子育て相談、園行事による親子体験活動や保護者同士の交流の場を工夫し、子育て支援の充実を図ることができた。</p> <p>△バス通所、多様な降園時刻への降園対応により、保護者と毎日直接会話をする機会が減ったことに対して、各種たより、電話による家庭連絡など工夫を行ってきたが、さらに懇談会、参観等、効果的な子育て支援の工夫を図る。</p>	<p>○心の教育を充実させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○当番・生き物飼育・野菜栽培・異年齢活動等を充実させ、思いやりや自尊感情を育むことに努めた。 ○園生活の中で触れる喜び、悲しみ、温かさ等、人の心を感ずる場面を共有する機会や地区サロン訪問などを通して、豊かな感性や人権意識の醸成に努めた。 △さらに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意した教育課程編成・指導の充実を図る。 <p>○年間を通して、家庭教育指標について「園・クラスたより」「園HIP」「子育て相談」「個人懇談」「保護者会」等により、子育て支援や家庭の教育力の向上を目指して、発信や連携を充実させることができた。</p> <p>○園庭開放、日常的な子育て相談、園行事による親子体験活動や保護者同士の交流の場を工夫し、子育て支援の充実を図ることができた。</p> <p>△バス通所、多様な降園時刻への降園対応により、保護者と毎日直接会話をする機会が減ったことに対して、各種たより、電話による家庭連絡など工夫を行ってきたが、さらに懇談会、参観等、効果的な子育て支援の工夫を図る。</p>
家庭・地域との連携	<p>○園・家庭・地域との連携の仕組みを整え、充実させる。</p> <p>○地域の環境・人材を活用し、子ども達の豊かな体験活動を充実させる。</p>	<p>○弥栄こども園と家庭、保護者同士を融合させ、連携を密にし、子どもたちへの教育効果、家庭の教育力を高めていくための保護者組織運営・活動の安定・充実を図ることができた。</p> <p>○弥栄こども園ならではの園周辺環境（野間川・田んぼ・農道・畑等）・施設（社会体育館周辺・弥栄小運動場等）を活用した園外教育活動・地域連携活動の充実、地域ボランティアの活用による園内教育活動の充実を図ることができた。</p> <p>○園からの丁寧な発信により、「弥栄こども園」の教育活動への理解を届け、家庭・地域との連携の充実が図れた。</p> <p>△保護者と毎日直接会話をする機会が減ったことに対して、さらに、各種たより、園HIP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等、家庭との効果的な連携の工夫を図る。</p>	<p>○弥栄こども園と家庭、保護者同士を融合させ、連携を密にし、子どもたちへの教育効果、家庭の教育力を高めていくための保護者組織運営・活動の安定・充実を図ることができた。</p> <p>○弥栄こども園ならではの園周辺環境（野間川・田んぼ・農道・畑等）・施設（社会体育館周辺・弥栄小運動場等）を活用した園外教育活動・地域連携活動の充実、地域ボランティアの活用による園内教育活動の充実を図ることができた。</p> <p>○園からの丁寧な発信により、「弥栄こども園」の教育活動への理解を届け、家庭・地域との連携の充実が図れた。</p> <p>△保護者と毎日直接会話をする機会が減ったことに対して、さらに、各種たより、園HIP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等、家庭との効果的な連携の工夫を図る。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>○全ての園生活をとおして、弥栄学園で進める基盤となる「聞く力」「折り合いを付ける力」の育成を図る。</p> <p>○園小の効果的接続を目指し、アプローチャプログラム改善、園小連携教育活動・共同研修の充実を図る。</p> <p>○生き生きと遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協同するための日常的教育活動・異年齢活動の充実を図る。</p> <p>○幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、5領域について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意して指導を充実させ、幼児教育・保育で育みたい3つの資質・能力を育成するため、計画的に理論研修・事例研修・実践研修を充実させ、指導力・教育活動の向上を図る。</p> <p>○さらに、各種たより、園HIP、電話による家庭連絡、参観等、家庭・地域との連携の仕組みを改善し、教育活動、子育て支援の充実を図る。</p>	<p>○全ての園生活をとおして、弥栄学園で進める基盤となる「聞く力」「折り合いを付ける力」の育成を図る。</p> <p>○園小の効果的接続を目指し、アプローチャプログラム改善、園小連携教育活動・共同研修の充実を図る。</p> <p>○生き生きと遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協同するための日常的教育活動・異年齢活動の充実を図る。</p> <p>○幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、5領域について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意して指導を充実させ、幼児教育・保育で育みたい3つの資質・能力を育成するため、計画的に理論研修・事例研修・実践研修を充実させ、指導力・教育活動の向上を図る。</p> <p>○さらに、各種たより、園HIP、電話による家庭連絡、参観等、家庭・地域との連携の仕組みを改善し、教育活動、子育て支援の充実を図る。</p>	

平成30年度 学校評価自己評価報告(こども園・幼稚園)

こども園・幼稚園名 [京丹後市立かぶと山こども園]

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度こども園経営の重点(短期経営目標)	
<p>こども園教育・保育目標「元気な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」</p> <p>《元気 勇氣 笑顔 つながれ仲間》 「いっぱい遊ぼう！夢中になって」 ～身近な人とかかわりを通してつながる喜びを感じよう～</p> <p>1 園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。</p> <p>2 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。</p> <p>3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現できる力を育てる。</p>	<p>○学校支援ボランティア「田んぼの先生」の支援があり、「田んぼ探検隊」「田んぼ運動会」「田植え体験」「稲刈り体験」「収穫クッキング」等、心を動かす素晴らしい活動ができた。保護者も巻き込みながら体験活動を行ったことは、親子で主食である米に興味や関心をもったり、自然環境に興味や関心をもったりすることができた。</p> <p>○保幼小連携では、小学校プールでの「チャレンジプール」等小学校に行つて施設を使用したり、小学校の教師と顔なじみになったりし、安心感をもって就学する準備ができた。</p> <p>○△「5歳児お泊り保育」「交通安全ボランテニア」「田植え・稲刈りボランテニア」等保護者の協力が得られた成果は大きいので、家庭と共に教育の向上を工夫する。</p> <p>△「挨拶する」「目を合わせて話を聞く」等、人と心を通わせる言語活動を充実させる。</p>	<p>○園児が安心感と信頼感をもっているいろいろな活動に取り組み体験を十分に積み重ねられるようにする。</p> <p>○様々な体験や遊びの場を意図的・計画的に取り入れ、主体的で協同的な活動ができる環境構成を工夫する。</p> <p>○自分の思いや考えを言葉で表現できる力を育む</p> <p>○家庭や地域と連携して規範意識や道徳性・社会性の芽生えを育む。</p> <p>○特別な配慮を必要とする園児に対し、適切な支援が受けられるよう支援体制と支援システムを整え、保護者や関係機関、小学校との連携に努める。</p> <p>○久美浜学園として『目指す子ども像』『教育目標』に向かい、連携を深める。</p> <p>○子育て支援と家庭教育力向上を目指し努力する。</p>	<p>本年度こども園経営の重点(短期経営目標)</p> <p>○園児が安心感と信頼感をもっているいろいろな活動に取り組み体験を十分に積み重ねられるようにする。</p> <p>○様々な体験や遊びの場を意図的・計画的に取り入れ、主体的で協同的な活動ができる環境構成を工夫する。</p> <p>○自分の思いや考えを言葉で表現できる力を育む</p> <p>○家庭や地域と連携して規範意識や道徳性・社会性の芽生えを育む。</p> <p>○特別な配慮を必要とする園児に対し、適切な支援が受けられるよう支援体制と支援システムを整え、保護者や関係機関、小学校との連携に努める。</p> <p>○久美浜学園として『目指す子ども像』『教育目標』に向かい、連携を深める。</p> <p>○子育て支援と家庭教育力向上を目指し努力する。</p>		
<p>評価項目</p> <p>小中一貫教育の推進(保幼小接続)</p>	<p>重点目標</p> <p>○『久美浜学園』の『教育目標』「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心もち、根気強く努力する子ども」の育成 『目指す子ども像』に向けて教育内容の相互理解を深め、一貫性のある指導を行う。</p> <p>○保育所園小学校と連携し、学園テーママク主体的・対話的で深い学びの実現を意識した「言語活動の充実」>を追求し、自ら考えを深める子どもを育成する。</p>	<p>具体的方策</p> <p>(1) 久美浜学園を通して子どもの実態を交流し、共通の『目指す子ども像』や『教育目標』に向けて一貫性のある指導をしていく。</p> <p>(2) 小学生や中学生との交流を行う。</p> <p>(3) 小学校との連携 ・運動会見学・体験入学・授業体験・プール体験・学習発表会見学・マラソン大会応援・園外保育 等</p> <p>(4) 保幼小の連携 ・合同研修会・教師、保育教諭、保育士の交流・アプローチプログラムとスタートカリキュラムの評価と改善・入学までにつけたたい力と入学後に継続したい取組の明確化・学力向上(保小から低学年に向けての言葉の力の育成)の授業と事業 等</p>	<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○「久美浜学園」研修会を通して小中の教師と一緒に学ぶ機会が持てた。公開保育を通して乳幼児期に大切にしている教育・保育を知ってもらうことができた。</p> <p>○今年度も保幼小連携部会で、アプローチプログラムやスタートカリキュラムの見直しを行った。小学校との連携を再度意識しながら保育の計画を立てた。</p> <p>○小学校での「チャレンジプール」をはじめ、「七夕飾り制作」「おもちゃランド参加」等、体験入学までに小学校を体験することは、小学校の教師と交流する機会にもなり、顔なじみになったことで、就学の際の安心に繋がっている。</p> <p>○普段から小学校への園外保育を行う等、職員全員で小学校を身近に感じるようにした。来年度もさらに全職員が久美浜学園の取組に関心を持ち、連携を図っていきたい。</p>		

教育課程	<p>○主体的・協同的に活動する力を育てる。</p> <p>○自己肯定感を育む。</p> <p>○自分の思いや考えを表現し、人と関わる力を養う。</p> <p>○自らの健康やリズムある生活に関心をもち、基本的な生活習慣や態度を身につける。</p> <p>○人権尊重・規範意識や道徳性・社会性の芽生えを培う。</p>	<p>(1) 様々な体験や人との出会いの機会を設定する。</p> <p>○自然の中で、五感を豊かにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂、泥、土、粘土、水・草木、花、野菜等自然物 ・虫、魚、飼育物等 生き物 ・山、森、海、果樹畑、田んぼ、旧神野保育所園庭、神社、牧場、かぶと山公園、展望台等 環境 <p>○様々な行事参加や体験活動をする。</p> <p>○園児が遊びや生活の中で主体となるような環境構成を工夫する。</p> <p>○異年齢交流をする。</p> <p>(2) 感動体験の機会を設定したり、言葉で思いを伝え合う機会を設定したりする。</p> <p>(3) 挨拶を奨励する。</p> <p>(4) 絵本や物語に親しむ機会を設定する。</p> <p>(5) 自立心を育てるような機会の設定をする。</p>	<p>○こども園近辺の自然の中で毎日遊んだり、散歩したりし、全園児の体力増進に努めた。冬季の感染症も大流行には至らず、元気に過ごせた。</p> <p>○「いっぱい遊ぼう 夢中になって」～身近な人とのかかわりを通してつながる喜びを感じよう～を研究テーマに環境や保育者の関わりを工夫してきた。一人一人の自発性を大事にしなが、一人一人に寄り添った保育を心がけた。また、クラスや学年の会議を通して環境や園児への関わりを工夫し、共通理解することは保育の質の向上にも繋がった。</p> <p>△「目と目を合わせて話を聞く」「挨拶をする」「返事をする」園児が増えない。今後の方策について様々な工夫をしていきたい。</p>
子育て支援	<p>○保護者の気持ちに寄り添い、安心して子育てができるよう支援すると共に保護者が子ども成長に気付き子育ての喜びを感じられるようにする。</p> <p>○家庭の教育力向上を図る。</p>	<p>(1) こども園でおしやべり会・子育て相談(随時・毎月)</p> <p>(2) 園開放・園庭開放</p> <p>(3) 預かり保育、一時預かり保育の活用</p> <p>(4) 支援センターの利用</p> <p>(5) 子育て講演会</p> <p>(6) 懇談会・保育参観・給食参観</p> <p>(7) 誕生児と保護者への紙芝居や絵本の貸し出し 等</p>	<p>○職員一人一人が温かい雰囲気、話しやすく相談しやすい雰囲気作りを心掛け、子育ての応援者になるよう努めた。</p> <p>○機会を逃さないよう担任や担当の保育者が保護者と丁寧に関わって、一緒に子育てをしてきた。信頼関係も構築でき、子どもの健やかな成長に繋がった。</p> <p>○学園として「家庭学習頑張り表」に取り組み、親子の生活習慣に対する意識が向上した。</p> <p>△「目を合わせて話を聞く」意識を向上させ方策を考えたい。</p>
家庭・地域との連携	<p>○家庭地域との連携と子育て支援を行う。</p> <p>○保護者同士や保護者と地域がつながり、園と協力して「久美浜を支える人」育成の土台づくりを行う。</p>	<p>(1) 田植え体験・稲刈り体験ボランティアの活動</p> <p>(2) 交通安全ボランティアの活動</p> <p>(3) 絵本の読み聞かせボランティアの活動</p> <p>(4) お茶会ボランティアの活動</p> <p>(5) 保護者会の協力</p> <p>(6) 久美浜学園家庭教育委員会との連携 等</p>	<p>○「田植え・稲刈り体験」「5歳児お泊り保育」等、保護者がボランティアとして子どものチャレンジに関わることで、地域の方とも関わる機会がもてた。子どもを真ん中に保護者同士、保護者と地域の方が繋がるきっかけ作りができた。</p> <p>○△今後も保護者会と一緒にあって、子育てを応援し、「子育て」「親育ち」を目指したい。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>・質の高い幼児教育を目指し、職員が積極的に研修していきけるよう工夫していく。</p> <p>・「挨拶する」「目を合わせて話を聞く」「健康的な生活習慣」「親子読み聞かせ」「共感体験をする」「安心・安全な環境を作る」取組について保護者会と連携し、家庭教育力の向上を目指す。</p>		